



昭和女子大学
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂
編集発行人 鈴木 円

プロジェクトは、あなたを「ナッジ」する

ビジネスデザイン学科長 薬袋 貴久

二〇一七年のノーベル経済学賞（ノーベル記念経済学スウェーデン国立銀行賞）は、シカゴ大学経営大学院のリチャード・セイラー教授が受賞しました。受賞の理由は、「人間の間の特性が、個人の決定や市場にどのような影響を及ぼすのか」を示した行動経済学への貢献とされています。

従来の経済学は、「人は自己利益の最大化をめざして合理的に意思決定し行動する」という前提のもとに経済原理の数々を解き明かしてきました。そうした抜け目のない利己的で合理的な個人という人間像（エコノミクス）は、強力なものでした。ゆえに、経済学は、あたかも自然科学における物理学のように、社会科学においてひと際美しく、秩序立った学問として発展してきたといえるでしょう。

しかし、人は時に思い込みや感情に左右されたり、周囲の意向に流されたりして、不合理な行動をとってしまうことがあ



新田ゼラチン株式会社とのプロジェクトの一場面

りません。行動経済学は、こうした人間像（ヒューマン）に注目して、従来理論が予測せざる結果をもたらすメカニズムを説明しようとしていくのです。そこでこの知見を、如何に社会に活かすかを提起したのが「ナッジ」の理論です。健康維持のためにカロリーを制限した方がよいと理解してはいても、つい食べ過ぎてしまうという経験を持つ人も多いでしょう。そうした人々の行動変容に向けた処方箋として、セイラー教授は、強制的に行動を変えよう「ナッジ（うるさく文句を言う）」された時よりも、「ナッジ（注意を促すために肘で背中をそっと押す）」された時の方がより良い結果をもたらすと指摘しています。『実践行動経済学』。例えば、カフェテリアで食事をする時、低カロリーのメニューを、手に取りやすいよう棚の前方に陳列したり、健康診断後の食事カウンセリングを希望するかを問う通知に、希望する旨のチェックをデフォルトとして入れておいたりといった具合です。

人々の選択の自由を保証しつつ、より望ましい特定の選択肢の採用に近づける「ナッジ」の手法は、極めてマーケティング的な発想でもあり、今後、教育を含む様々な場面での応用を期

待したいところです。さて、昭和女子大学では、全ての学部において、幾十もの大小様々なプロジェクトが日々動いています。学生の皆さんは、教員や実務家の皆さんとのコラボレーションを通じて、仲間と協力しつつ、小さな成功や失敗を繰り返しながら、学んだ専門知識を活動に活かす術を知り、また、活動の過程でその遂行に必要な知識をあらためて学ぶ機会に参与することができそうです。こうしたプロジェクトは、グローバル教育と並んで、二十一世紀における昭和女子大学での新たな学びの代名詞に育ってきました。

今月の昭和学報は
平成二九年度後期避難訓練を実施... (2)
秋桜祭特集... (4・5)
現代教養学科
二つの社会調査研修を実施... (6)

選択肢）そのものよりも、むしろそのプロセス（選択肢の選び方の作法）を経験することです。

選択肢の選び方の作法を身につけるためには、何よりも皆さん自身が、連携先の企業や団体が抱える課題を我が身のこととして捉える「オーナーシップ（当事者意識）」を発揮することが大切です。制約を乗り越えて解決に至るアイデアを見出した時、人は、ワクワクする自分の姿に気が付くものです。そして、高揚感と共に、他者との関係で自身を律する品性のあり様を知るのです。

一方、豊富な専門知識や実務経験を有するということは、望ましい成果に至るための過程を熟知しているということでもあります。私たち教員や実務家の役割は、プロジェクト活動を様々な選択肢の束として設計し、皆さんの気づきの瞬間を捉えて、背中をそっと押すことだと考えています。プロジェクト活動は、あなたを「ナッジ」しています。そして、その果実を得るのは、選べる自由を行使したあなた自身なのです。（みない たかひさ）

選んだプロセス（選択肢の選び方の作法）を経験することです。選択肢の選び方の作法を身につけるためには、何よりも皆さん自身が、連携先の企業や団体が抱える課題を我が身のこととして捉える「オーナーシップ（当事者意識）」を発揮することが大切です。制約を乗り越えて解決に至るアイデアを見出した時、人は、ワクワクする自分の姿に気が付くものです。そして、高揚感と共に、他者との関係で自身を律する品性のあり様を知るのです。

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム第五期生 初教 川村真由さん 帰国報告

私は平成二八年の夏から、主にカンボジアとルワンダにおいて活動を行った。カンボジア留学の目的は、専門の初等教育学を活かし、教育機関において「栄養／衛生や保健に



ルワンダで

関しての知識の啓発活動を行うことであった。しかし活動が続ける中で、基礎教育自体に接することができず読み書き計算もままならない児童やドロップアウトする児童が多数いる厳しい現状を知った。教育分野だけではなく、貧困層の経済的自立がなければ持続的な開発にはつながらないことを実感した。また、国連フォーラムを通じ、アフリカのルワンダで活動する国連機関のプロジェクトに採用されたことで、貧困層の自立という課題は後発開発途上国における共通の課題であること

がわかった。今後は、そうした問題の解決を目指す組織でのインターンを行うと共に、インドのビジネススクールに通うつもりだ。将来的には、英国の大学院で教育開発と国際経済学を学び、国際金融公社で、貧困層を巻き込んだインクルーシブビジネスを通じた戦略的な教育開発の在り方を研究したい。また、教育分野での大きな政策決定に関わることが出来る国連で働くことも目指したいと考えている。留学を通じ、曖昧だったキャリアプランが明確になった。この経験が今後の人生で財産となることは間違いないだろう。（初教 川村真由）

食安全マネジメント学科 プリマハム(株)と共同でレシピコンテストを開催

食安全マネジメント学科は六月にプリマハム(株)と共同でハム、ソーセージ等を用いたレシピコンテストを開催した。学生全員が個々にメニューを考案、調理をし、レシピに写真を添えて応募した。約二〇〇件の応募の中から、社内の書類審査で部門毎に一〇品に絞られ、その後赤堀料理学園で実際に調理し、赤堀校長を特別審査員として、試食と審査を行った。夕食メニュー部門は、最優秀賞に望月沙弥香さん、優秀賞に細野祥さん、渡



の表彰式では、受賞メニューが厳選された食器に盛り付けられ、プロのカメラマンによる撮影会も開催された。学ぶことの多いレシピコンテストであり、プリマハム(株)のご厚意に感謝する。（安全 教授 秋山久美子）



### 墓前祭

本学は、戦災により中野から現在の世田谷区太子堂に移転した十一月九日を復興記念日としている。一〇月五日の先哲之慰霊祭に続き、十一月八日には松陰神社の恩師・同窓の墓前に附属校園児・児童・生徒の代表と



大学の学生代表が集い墓前祭を行っている。本年の墓前祭では、恩師・理事・職員・大学同窓・中高同窓・初等部同窓の二三四柱が合祀された。式には、ご遺族の方々も参列され、坂東眞理子理事長・総長の講話の後に、学友会執行部の代表学生が、先人への感謝の意を表すとともに、



今後一層の精進の決意を詠んだ歌七首を捧げた。師にこがれ教を胸に夢をつかみいつも心に感謝の気持ち

(初教 奥山倫佳)  
灯火の光に宿る師の教え  
胸に抱きて永遠に忘れん

(初教 鈴木沙永)  
光さず葉葉流れる秋の庭  
ありし日の火も残せり

(心理 加藤すみれ)  
歌声を芳香のせる秋風は  
御霊へ馳せる想いも運ぶ

(環教 高橋らら)  
秋風に恩師を思ふ白い百合  
定められし思ひ今も息づく

(環教 千葉穂乃花)  
毎日を学び行く中に恩師の志  
語り受け継ぐ 新しき日々

(健康 網野遥香)  
今日の日亡き恩師への詩うたう  
昭和の今と昔をつなぐ

(健康 石井珠奈)

### 先生の研究室訪問

#### メディアを通じた日常生活と学び

現代教養学科専任講師 天笠邦一先生



現代教養学科の天笠邦一先生のご専門はメディア論で、今や私たちの生活に欠かすことのできないメディアが社会にどのような影響を及ぼすかを研究されている。例えば、九〇年代なかばに利用されていた「ポケベル」や現在のスマホ・SNSなど使用するツールの急激

な変化が、人間関係や自己認識にもたらす変化について調査をしているそうだ。先生は群馬県の農村部のご出身で、小中学校の九年間は、気心のしれた幼なじみと過ごされた。しかし高校進学では一転、知り合いは一人もいない環境となり、さらに大学進学の際には上京したこともあり、やはり環境が大きく変わったようだ。

先生は群馬県の農村部のご出身で、小中学校の九年間は、気心のしれた幼なじみと過ごされた。しかし高校進学では一転、知り合いは一人もいない環境となり、さらに大学進学の際には上京したこともあり、やはり環境が大きく変わったようだ。

先生は群馬県の農村部のご出身で、小中学校の九年間は、気心のしれた幼なじみと過ごされた。しかし高校進学では一転、知り合いは一人もいない環境となり、さらに大学進学の際には上京したこともあり、やはり環境が大きく変わったようだ。

先生は群馬県の農村部のご出身で、小中学校の九年間は、気心のしれた幼なじみと過ごされた。しかし高校進学では一転、知り合いは一人もいない環境となり、さらに大学進学の際には上京したこともあり、やはり環境が大きく変わったようだ。

### 学友会執行部・ボランティア委員会

#### 三茶クリーンキャンペーン

学友会執行部は一〇月一〇日から一三日の四日間ボランティア委員会と合同で「ごみ拾い・あいさつ運動」を行った。この運動は、大学の周辺で清掃活動を行いながら、行き交う人に挨拶を



この「ごみ拾い・あいさつ運動」は、今回が初めての試みであり、改善点もいくつかあったが、地域を見直す良いきっかけともなった。この活動は、これからも恒常的に続けていくことを検討している。

(学友会執行部)

小林瑞季

### ボランティア委員会

#### 書き損じハガキキャンペーン

ボランティア委員会で、一二月一日から一月末まで書き損じハガキキャンペーンを行う。



この活動は、書き間違いや、未使用ハガキをクラスごとに回収し、換金して得たお金を寄付するもので、貧しい国の教育を受けられない子どもたちのために使われる。あなたの家に、ハガキが眠っていないだろうか？ そうしたハガキを探して、ぜひ寄付していただきたい。一人一枚のハガキでも、集めることで大きな寄付となり、救われる人たちがいる。今年の活動では、昨年より一枚でも多くのハガキが集まることを願っている。

(委員長 水上愛理)

### 学内探検

#### 図書館書庫

世田谷キャンパスでの図書館開設は、昭和二十三年で、来年七〇周年を迎える。現在、図書館には五三万冊余りの蔵書があり、その八割が地下書庫に収蔵されている。書庫入庫にあたっては、



学生証・貴重品と筆記具以外の荷物をカウンター前のロッカーに預け、受付で入庫証を受け取り、エレベーターで地下へ向かう。地下一階書庫には電動式集書架が立ち並んでおり、雑誌や紀要等のほか、近代文学分野では有数のコレクションを誇る「近代文庫」がある。同文庫は、本学の出版物である『近代文学研究叢書』が、昭和三十三年に第六回菊池寛賞を受賞し、その賞金の一部を基金として創設された。その出版のあととなったのは、戦前から続く「文学遺跡巡礼」という学生たちも

調査を行う中で、ママ友の人間関係に興味を持った。また、当時友人達が結婚し、携帯電話が身近にある環境の中での子育てが始まったことへの気づきが博士論文のテーマに結びついたそうだ。「学びは日常生活に結びついている。Twitter一つをとっても、漫然と眺めるだけではなく、考えながら使うことで研究テーマにもなる。社会学は社会学を学ぶ学問、学びべき社会は目の前にある。『なぜこうなるのか?』という問題意識を持つことを大切に」と天笠先生。さらに「周囲との関係性の大切さ」についても話してくれた。多様な人との関わりがあつて、

加わった調査研究なのだ。そう。コレクションの中には創立者人見圓吉先生自ら神田の古書店に通って購入された本もあるという。書庫には貴重な本も並んでおり、「ニイチェ」や「ピノチオ」など時代を感じさせるカナ表記の表題をもつ本も見られた。新聞の縮刷版の保管コーナーで自分の生まれたい日の新聞をめぐってみると、驚くほど「昔」に感じられ衝撃を受けた。その他、和綴じの本なども並べられており、書庫は、思いがけない発見の場所であった。取材班の印象に残ったのは、『このころ』の復刻版自筆原稿

(学報委員 小尾香菜子 加藤すみれ・金井咲枝 齊藤美咲)

一四二名の学生が秋桜祭実行委員として活躍した



ミス・インターナショナル各国代表と坂東真理子理事長・総長

本年度で二五回目を迎えた秋桜祭。実行委員会では、「輝（かがやき）」をテーマに、一年間、参加一〇〇団体とともに秋桜祭の成功に向けて活動を続けてきた。また、開催前には近隣の多くのお客様にご来場いただいた。さらに、ミス・



オープニングセレモニーで挨拶する岩崎実行委員長

### 秋桜祭を終えて

秋桜祭実行委員長 岩崎佑衣

インターナショナル各国代表者の方とのイベントや、BSTのイベント等が行われ、各団体による展示・発表・模擬店・イベントに加え、新しい個性が輝く場となったのではないかと思います。会場では各団体の個性の輝きや来場の皆様の輝く笑顔を見ることができ、秋桜祭に関わる人にとって輝く思い出となったことだろう。様々な「輝」で溢れた二日間、テーマに相応しい学園祭となった。

最後に秋桜祭の開催にあたりご支援、ご協力いただいた全ての方に実行委員会一同心よりお礼申し上げます。

## CoSMoS 2017 参加団体一覧

- 合気道部
- 愛茗流煎茶道サークル
- アカ族の雑貨を売りタイ
- アメリカ初等教育演習
- Encore
- 生田流箏曲部
- 池坊華道部
- 伊豆大島写真展24/7「キリトル」
- 1/1workshop 2017
- イラストレーション部
- 裏千家茶道部
- 英国文化研究会
- 英語コミュニケーション学科
- 海老沢研究室
- 演劇部
- ENVO (学生ボランティアコーディネーター)
- 大橋研究室
- おしるこ隊
- おばけやしき by 初教1B
- Cacao Angel Project
- 輝け☆健康「美」プロジェクト
- Cooking team
- 輝け☆健康「美」プロジェクト
- Report team
- 学生会執行部
- 金子研究室
- 紙であそぼう!
- 環境デザイン学科 堀内ゼミ
- 環境デザイン学科 桃園研究室
- Crusta☆
- Global Music Club
- 軽音楽部
- けっぱれ! 東北!!
- 現代教養 せめちゃんカフェ
- 現代ビジネス研究所インバウンド
- ビジネス研究プロジェクト
- 剣道部
- 硬式テニス部
- 光葉同窓会
- 国際学部シンポジウム
- 国際学科1年 多文化カフェ
- 国際貢献クラブ
- こしゃって鶴岡
- 子ども研究会
- Sanchart
- 三茶・笛吹プロジェクト
- さんちやを楽しもう! プロジェクト
- CLA café
- ジャパンアニメーション部
- 手話の輪
- 春季ヨーロッパ研修
- Showa Gleam International
- 昭和女子大学クリケットクラブ
- 昭和女子大学図書館
- 昭和創作サークル
- 初等教育学科2年B組
- 初等教育学科3-B
- 初等教育学科早川ゼミ
- 初等教育学科有志
- 書道部
- 白川研究室
- Sing Song Society
- 新宿駅模型Project
- 心理学科 顔のふしぎ研究会
- 心理学科 心理学研究会
- 志摩ゼミ
- 吹奏楽部
- 杉浦久子研究室
- C'est Moi! 新メニュー開発!
- そうだ 歴史、行こう。
- 総務委員会バザー
- 曾我の里プロジェクト
- 高尾研究室
- ダンス部AUBE
- チームおむちゃん
- CHAWA
- 2×4で建ててみよう
- 20's Photo Project
- 新潟村上竹灯籠プロジェクト
- 日文プロジェクト
- 日本語日本文学科 書道展
- バドミントン部
- 原研究室
- バレーボール部
- ビジネス 高木ゼミ
- ビジネスデザイン学科 展示
- ビジネスデザイン学科 バザー
- 人見杯英語スピーチコンテスト
- 百華繚乱
- ファッションショー
- 福祉社会学科
- フミオ
- 文芸部
- Belle charme de TSURUOKA
- 放送研究会
- マンドリン・ギタークラブ
- 民俗学研究会
- 山田パン工房
- Leaders Academy
- 理科の実験室
- 礼法・着付けサークル葵
- 歴史サロン
- ワンダーフォーゲル部

原研究室は昨年に引き続き人気のワインナーロールマン



大歓声を受けた書道部によるパフォーマンス



尺八奏者や卒業生と共演した生田流箏曲部50周年記念公演



秋桜祭の二日目に行われた国際学部シンポジウム「グローバル化時代を生きる女性たちへ…何を学び、どこへ行くのか」に参加した。パネリストの杉田敏

国際学部シンポジウムを開催

11/12

氏、鳥飼玖美子氏、橘フクシマ氏、坂東眞理子理事長・総長から、これからグローバル社会で生きていく私たちに向けて力強いメッセージをいただいた。印象に残ったのは、異なる分野で活躍されている四人の方々が、特に強調してお話された内容が共通していたことだ。「確固たる自分を持つこと」、「とにかく勉強すること」、「言語習得も大切だがコミュニケーション力も高めることも大切」などである。これらは自らを向上させるためには当たり前のことだが、実践できる人は少ない。パネリストの方々のように、私たちも日々努力を重ね、真の「global citizen」となるように成長していきたい。

(英コミ 古山 琴)

日文的展示の力作 壁ドンコーナー



豪華賞品のスタンプラリー



ちびっこに大人気1/1 workshop



創立者記念講堂の1階席を埋め尽くすお客様を迎えたAUBEの大迫力パフォーマンス

The 21st Hitomi Cup Speech Contest



The 21st Hitomi Cup English Speech Contest was held on November 11 in Aurora Hall. Thirteen contestants participated. The top three speakers were all students of Showa Women's University. The first place winner was Sachiko Ichihashi from the Department of International Studies. The second place winner was Natsumi Yasuda from the Department of English Language and Communication. The third place winner was Ayumi Yatabe from the Department of English Language and Communication. Respectively, their speech topics addressed contemporary issues: Social nonconformity, international relations, and household gender roles.

各賞発表



背景のストライプと一体化し、文字自体が輝きを放ちながら飛び出してくるイメージです。一人ひとりが輝ける秋桜祭になるよう思いを込めました」と塚本さん。オープニングセレモニーで金子朝子学長より賞状と副賞が授与された。

秋桜祭ポスターコンテスト

今年の秋桜祭ポスターコンテストは、五月一六日から七月七日の期間で全学科に作品を募集し、一一作品の応募があった。七月一二日〜二日に学生ホールニカ所で開催を行い、環境デザイン学科三年生の塚本さくらさんの作品が選ばれた。「第二回秋桜祭のテーマ「輝」の言葉のイメージをアイボグラフイに落とし込んでデザインしました。背景のストライプと一体化し、文字自体が輝きを放ちながら飛び出してくるイメージです。一人ひとりが輝ける秋桜祭になるよう思いを込めました」と塚本さん。オープニングセレモニーで金子朝子学長より賞状と副賞が授与された。

現代教養学科

二つの社会調査研修を実施

◆国内社会調査研修

現代教養学科では、九月二〜五日の三泊四日の日程で新潟県魚沼市において国内社会調査研修を実施し、小出地区と



福山新田地区の二手に分かれ調査を行った。

私は店舗がほとんどない福山新田地区で調査したが、取材の中で都会に住む私たちは出来上がった商品を購入して生活していることが多いことに気づいた。そのため、お金がないと「つまらない」と感じ、何かを作る力や伝承されてきた知恵が弱くなっている。それに対し福山新田の人々は、既存品を購入するのではなく、自分たちで生活をつくることを楽しんでいった。福山新田の人々の生活は当初の印象の「不便

◆東京社会調査研修

さ」ではなく「本当の豊かさ」を感じたものであった。(現代 舞田優香)

学科専門科目の一つである東京社会調査研修の本年度のテーマは「東京の自然と農業を守る」であった。外部講師による特別講義を受講したのち、都心の作られた自然としての大橋ジャンクションの見学、世田谷区立桜丘すみれば自然庭園での子供向けの自然教育イベントの企画・運営を行い、都市農業も体験した。これらの活動を通して、私たちは都市部での自然の必要性と、東京の自然や



農業を守り活用していくことの大切さを学んだ。

さらに、夏の農業体験をきっかけに「SWU Agri-Girls〜Team Reiko Jr.」という学科プロジェクトを立ち上げ、都市農業の活性化を目指している。(現代 川野裕子 大木日奈子)

初等教育学科 早川ゼミ

環境エネルギーラボ2017に参加

初等教育学科早川ゼミは、一〇月七・八日に二子玉川ライズで開催された「環境エネルギー・ラボ2017」に出展協力を行った。初開催の大型ワークショップイベントで、幼児から小学生を対



象にNPOや大学・環境に関わる企業等を中心に延五〇を超える企画の参加があった。ゼミでは「街をつくる」をテーマに「絵巻物の制作」「街の模型作り」を同時に実施した。オフイスビル八階での開



催で、参加者が集まるか不安であったが、すぐに満席になり二日間で一〇組の親子が参加した。「絵巻物の制作」では、縦一五cm横九〇cmの和紙に、窓からの街の景色を描き、巻物の本体も組み立てて、仮巻に仕上げ、巻物は絵を丸めて保存する容器になっていることが説明された。また「街の模型作り」では、二〇cm角の段ボール上に、菓子箱やボトルキャップ等のリサイクル部品をグルーガンで接着し、思い思いの街をデザインした。子ども達の活動を手伝い、出来上がった作品を見ることはとても楽しい経験だった。(初教 吉田あかり)



一〇月四日から、カフェテリア・ソフィアの食券販売機

が新しくなり、PASMOやSUICAなどの電子マネーが利用可能になった。初日には、ソフィア利用者一三七一名のうち、約一割の一四〇名が利用した。



インターンシップ報告 第二弾

◆メットライフ生命保険株式会社

私は、この夏、メットライフ生命保険株式会社で約一カ月間のインターンシップに参加した。参加に当たっては、ある程度の期間企業で働くことで、社会で活躍するために自分に足りないものを明確にし、今後の就職活動に臨みたいという目的があった。また、大手外資系企業である同社で働くことは、英語コミュニケーション学科で四年間磨いてきた英語力が実際に通用するのかを試す絶好の機会でもあった。経験してわかったこと

は、日ごろの授業で使う英語と仕事で使う英語には差があるということや、ビジネスの場で使う英語の中にも業種や部署によって必要な専門用語は様々であるということだ。部署によっては、英語力よりも、専門知識が要求される場合もあることも知った。さらに、社会で活躍するためには、英語力はもちろんだが、「英語を使って話す内容そのもの」が自分には足りないことにも気づいた。どんなに英語が上手に話せたとしても、語る内容が

仕事上の説得力に欠けていれば、結局ビジネスでは相手にされないということが、様々な会議やミーティングに出席する中で、理解できた。

今回のインターンシップ中には、仕事以外でも積極的に社員の方々とコミュニケーションをはかり、働き方や、やりがい、目標、働く環境など、人生の先輩の意見をうかがうことができた。外資系企業であるためか、多様な背景をもつ方が働いており、様々な角度から意見を聞いた。そのことで、自分自身を客観的に評価し、欠点や課題点も明確にできた。同社で経験させて頂いたことは、本格

◆株式会社イリア

株式会社イリア

大学三年の今年の夏休みに、私は「株式会社イリア」でのインターンシップに参加した。インターンシップ期間の九月一日から二二日の二週間、大変充実した、将来的にも収穫のある経験を重ねることができた。

環境デザイン学科で学ぶ私にとって、建築業界は以前から関心の深い業界であり、その中でもインテリア分野は、第一印象で人の心を動かすことができる点で非常に重要であると考えていた。そ

皆さまに感謝したい。(英コミ 久保春佳)

株式会社イリア

ここでインテリア事業に特化している同社でのインターンシップを希望した。同社では、都市再生プロジェクトに参加させて

いただいた。そこでは、プロジェクトの進め方やデザイン考案のプロセスを教えていただき、デザインを納得するまで追求される社員の方々の姿に、大きな刺激を受けた。その他にも、床壁のデザイン考案や図面起こし、模型製作などを行わせていただいた。中でも模型製作では、お客様にお見せ

するものであることから、製作においては、細やかな心配りと、幅広い知識や経験が必要となる作業であることを知った。

同社でのインターンシップを通して、社会人の方々が日々どのような意識をもって、またどのような工程で仕事をされているのか、その一端を理解するための、大きな一歩を踏み出した。これから本格的に就職活動が始まる。このインターンシップでの活動を活かして、自分がやりたいことや、なりたい将来像を明らかにして、就職活動に取り組んでいきたい。(学報委員 小泉奈史)

行事予定

- 12月 2日(土) 第54回メンターカフェ「商品開発・企画の仕事って?」(13:30)
- 12月 5日(火) 産学交流会(15:30)、【文研】ザ・チーフタンズ(18:15)
- 12月 6日(水) 教員免許状一括申請確認事務連絡会(15:30) 第88回メンターフェア(15:00) 第4回図書館貴重資料展「聖書・ペリー公の時祷書展」(~12/20)
- 12月 9日(土) 教員免許状一括申請確認事務連絡会(12:30) 第6回オープンキャンパス(13:00) 教員採用内定者による報告会(13:30)
- 12月13日(水) 【女教】中川恵一氏「日本人とがん」(15:30)
- 12月14日(木) 第89回メンターフェア(12:00)
- 12月19日(火) 【文研】キエフ国立フィルハーモニー交響楽団(18:15)
- 12月20日(水) 土曜代替日・第4回全学対象TOEIC IPテスト(3・4限)
- 12月21日(木) 【文研】映画「犬に名前を付ける日」(18:15)
- 12月22日(金) 図書館ゼミガイダンス最終日
- 12月23日(土) 冬季休暇(~1/5)
- 12月25日(月) 授業予備日
- 12月26日(火) 図書館休館(~1/5)